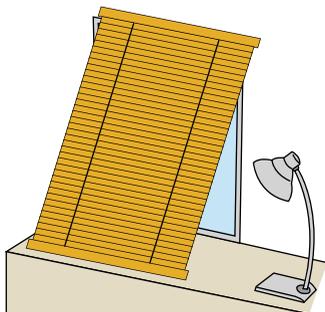


光をほどよく遮る すだれ 簾



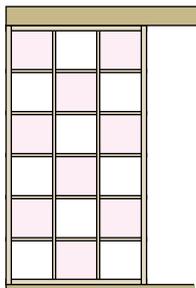
簾は日差しを避けつつ風を通すという、夏にはもってこいのアイテムです。竹製や葦製のほか、最近ではビニール製のものも登場しています。風流なインテリアとしても人気で、住宅が洋式化した現在でも簾は多く使われています。

■ひと工夫■

- 窓の外に外掛ける際は、窓から10センチほど離して垂らすと、窓との間に空気層ができるため、熱を遮る効果が生まれます。
- 窓辺に簾を立てかけて簾の蔭に照明を置きます。夜は簾越しにこぼれる光を楽しめます。

障子

やわらかな光で部屋を包む



障子は木製の枠に薄い和紙を貼った建具で、屋内と屋外、または部屋を仕切ります。障子紙は吸湿性や断熱性が高いうえ、日光を柔らかく拡散させるので、自然な明るさをつくりだすことができます。

■ひと工夫■

- 障子紙を張り替える時、交互に小紋の色つき和紙に張り替えて色格子状にすると、部屋の雰囲気がガラリと変わります。葉っぱのすかし貼り等の柄物の格子張りも又、違った雰囲気が出ますよ。

涼を呼ぶ「仕切り」アイデア

衝立(ついたて)に布をかける



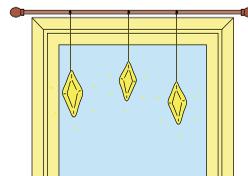
木製の衝立に薄い布をかけるだけで、簡単に仕切りはできます。衝立や屏風を置くスペースがなくても、細い丸棒に布を留めて上から吊せばできあがり。たった一枚の薄い布でも、部屋全体に与える影響は大きいものです。



ガーゼ地のカーテンに葉っぱを縫いつける

ガーゼ地のような薄い布地でカーテンを仕立て、葉っぱや市販の羽根を糸で縫いつけます。風にふわふわ揺れるカーテンが、部屋の空気をやわらかく、かつ爽やかに演出します。

ガラスの飾り玉を窓辺に吊り下げる



カーテンボールからクリスタル風のガラス玉を吊すと、窓から差し込む日光に反射する光を楽しめます。

ミニコラム

日本人の仕切り感覚

西洋で「仕切る」とは、行き来することも、見ることも、音を聞くこともできない、いわゆる「遮断」された状態を表しますが、日本の場合はたとえ仕切っても、その隙間を行き来できるし、光や音、風の通りも共有できます。これは日本固有の生活様式です。襖や障子、格子、ついたて、のれんなどは、日本人の空間観から生み出されたアイテムなのです。

涼しい夏はアイデア次第
透かして遮る

「仕切り」アイテム

いよいよ夏、到来です。今回は涼しく夏を過ごすため、「仕切り」をテーマにご紹介します。たとえば、簾や障子などといった昔ながらのインテリアを取り入れるだけで、涼々を感じる部屋に様変わり。日本特有の「仕切り」にひと工夫して、ゆとりある爽やかな夏を過ごしましょう。